

月 日 ヨハネの福音書 16: 1-11

問題: 右と左を結んでください。(合うものを選んで)

- 罪・私(イエス)をしんじない
- 義・私は父なる神のもとに行く
- さばき・この世の君がさばかれる

月 日 サムエル記第一 14章

問題: ヨナタンは王子であり、また大勇士でした。彼の信仰がはっきりとわかるのは何節ですか。選んで書いてください。

答え:

月 日 ヨハネの福音書 16: 12 - 24

問題: 真理の御霊(聖霊)はどのような働きをなさいますか。

答え:

月 日 サムエル記第一 15章

問題: サウルはどのようにして、神の命令にそむきましたか。

答え:

月 日 ヨハネの福音書 16: 25 - 33

問題: 「勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」とは、だれが語った言葉ですか。

答え:

月 日 サムエル記第一 16章

問題: サウルの後に油注がれた王は誰ですか。

答え:

月 日 ヨハネの福音書 17: 1 - 7

問題: イエスさまは「永遠のいのち」についてどのように言われましたか。

答え:

いのちのことは社の一日一問を参考にしています。

喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。ローマ人への手紙2:15

人は誰にでも、嬉しい時や悲しい時、また寂しい時があると思います。その時あなたは、誰とその気持ちを分かち合っていますか。人の喜びをねたまず、悲しんでいる人に安易な気休めを言わず、寂しい時には、あなたのそばに立って、一緒に笑い、一緒に泣き、無理なアドバイスするよりは、ただあなたの話を聞いてくれる友。あなたにはそのような友がいますか。私にはいます。その友はイエスキリストです。イエス・キリストの語ったことばに、次のようなことばがあります。すべて、**疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。**マタイの福音書11章28節
この世の中、疲れた人や重荷を負っている人と一緒にいたいという人は、どれぐらいいるでしょうか？しかし、イエスさまは、疲れた私に、重荷を負っていた私に、心に憤りをもって悩んでいた私に、障害を持ち苦しんでいた私に手をさし伸ばされる友でした。あなたも、イエスキリストと友になってみませんか。

礼拝のご案内

日曜礼拝(日曜日)

11:00~12:00

金曜日礼拝(祈り会)

20:00~21:00

2023年 5月14日

428

聖書キリスト教会

伊勢崎聖書キリスト教会



〒372-0855
群馬県伊勢崎市長沼町2166-4
TEL/FAX 0270-55-3177
japanese0691@gmail.com

かん よんろく
牧師 姜 永祿

礼拝の順序

司会：矢加部 連
説教：姜 永禄師

賛美&祈り アルニオン賛美チーム

招 詩 詩篇 121 篇

新 聖 歌 37

主の祈り

聖 書 ヨハネの福音書 19：26 - 27

説 教 「ご覧なさい。あなたの母です」

新 聖 歌 233

献金祈禱 説教者

祝 禱 説教者

報 告

敬称略

献金は自由献金です。

詩篇 121 篇

私は 山に向かって目を上げる。
私の 助けはどこから来るのか。
私の 助けは主から来る。
天地を造られたお方から。
主は あなたの足をよろけさせず
あなたを守る方はまどろむこともない。
見よ イスラエルを守る方は
まどろむこともなく眠ることもない。
主は あなたを守る方。
主は あなたの右手をおおう陰。
昼も 日があなたを打つことはなく
夜も 月があなたを打つことはない。
主は すべてのわざわいから
あなたを守り
あなたのたましいを守られる。
主は あなたを行くにも帰るにも
今よりとこしえまでも守られる。

主の祈り

天にまします我らの父よ。願わくは御名をあげめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。我らの日用の糧を今日も与えたまえ。我らに罪を犯すものを我らが赦すごとく、我らの罪をも赦したまえ。我らを試みに会わせず悪より救いいただいたまえ。国と力と栄えとは、限りなく汝のものなればなり。

報告&お知らせ

- 1、本日、はじめていらっしゃった方を心から歓迎いたします。
- 2、礼拝は教会とオンラインで同時に行います。
- 3、週報の聖書通読一日一問に答えながら毎日聖書を読みましょう。
- 4、本日は母の日礼拝と礼拝後、5月のお誕生日会あります。

祈りの課題

- 1 教会に属している方々が、御言葉と賛美と祈りの中で、主と深く交わり、愛の人となりますように。
- 2 教会に属している方々の健康と安全、平安が、主の御手により守られますように。
- 3 水曜・金曜礼拝(祈り会)に主の大いなる御業を見ることができるよう。
- 4 全世界の教会が安心して礼拝の恵みにあずかることが出来るように。

